



調査の概要

- (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。そして、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (2) 調査の対象学年

小学校第6学年(5月27日に調査を実施した学校・児童数 門真市:14校 691人)
 中学校第3学年(5月27日に調査を実施した学校・生徒数 門真市:6校 779人)
- (3) 調査内容
 - ① 教科に関する調査(国語・算数・数学)
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっておくことが望ましい知識・技能等
 - ・知識技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価改善する力等
 - ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

調査結果の概要 と 今後へ向けて

【結果の概要】
 昨年度(令和2年度)は、調査が中止でした。そこで、令和元年度の標準化得点と今年度(令和3度)の標準化得点を比較しました。小学校の結果は、算数は0.4ポイント下降、国語は3.1ポイント上昇する結果でした。中学校の結果は、国語は0.3ポイント、数学は1.9ポイント、上昇する結果でした。

門真市全小中学校では、授業改善の取組のひとつとして、門真市版授業づくりベーシック(学習指導要領に基づいた授業改善)を推進しています。その成果を「全国平均正答率7割以上の問題」(以後7割問題)の正答率ではかっています。7割問題については、市内小中学校において平均正答率7割以上を達成できるよう取組をすすめています。

今年度の結果を見ると、7割問題において本市で平均正答率が7割を下回っている問題は、小学校の国語では1問「資料を用いた目的を理解する説明として適切なものを選択する」、算数では1問「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる」、中学校国語では、3問「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」、数学では1問「具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる」となっています。

【今後に向けて】
 今回の結果をうけ、各学校においては、課題を見受けられた領域における授業改善を行うと共に、全国平均正答率7割以上の問題を正答できなかった児童生徒に対する学力保障の手立てについてもあわせて行ってまいります。門真市教育委員会としても、市内小中学校の取組を支援してまいりますので、今後とも引き続き御支援御協力の程よろしくお願いたします。

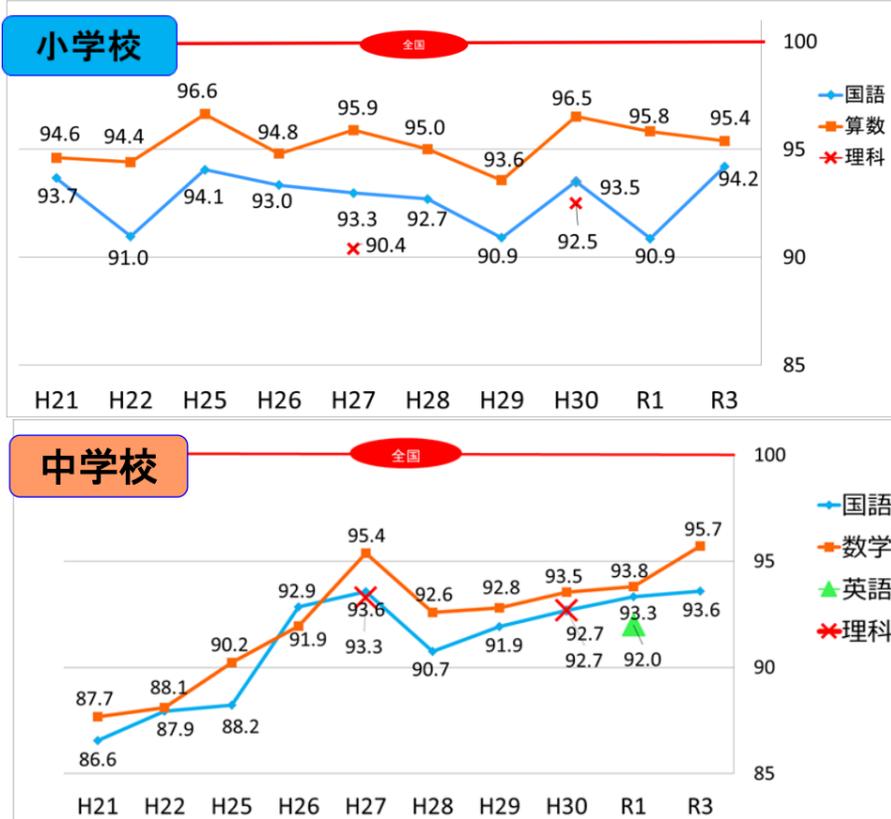
校種・教科・区分別平均正答率 (%)

小学校	令和元年度			小学校	令和3年度		
	門真市	大阪府	全国		門真市	大阪府	全国
国語	53	60	63.8	国語	59	63	64.9
算数	62	66	66.6	算数	65	70	70.3

中学校	令和元年度			中学校	令和3年度		
	門真市	大阪府	全国		門真市	大阪府	全国
国語	65	70	72.8	国語	59	62	64.9
数学	53	58	59.8	数学	52	56	57.5
英語	49	56	56.0	英語	-	-	-

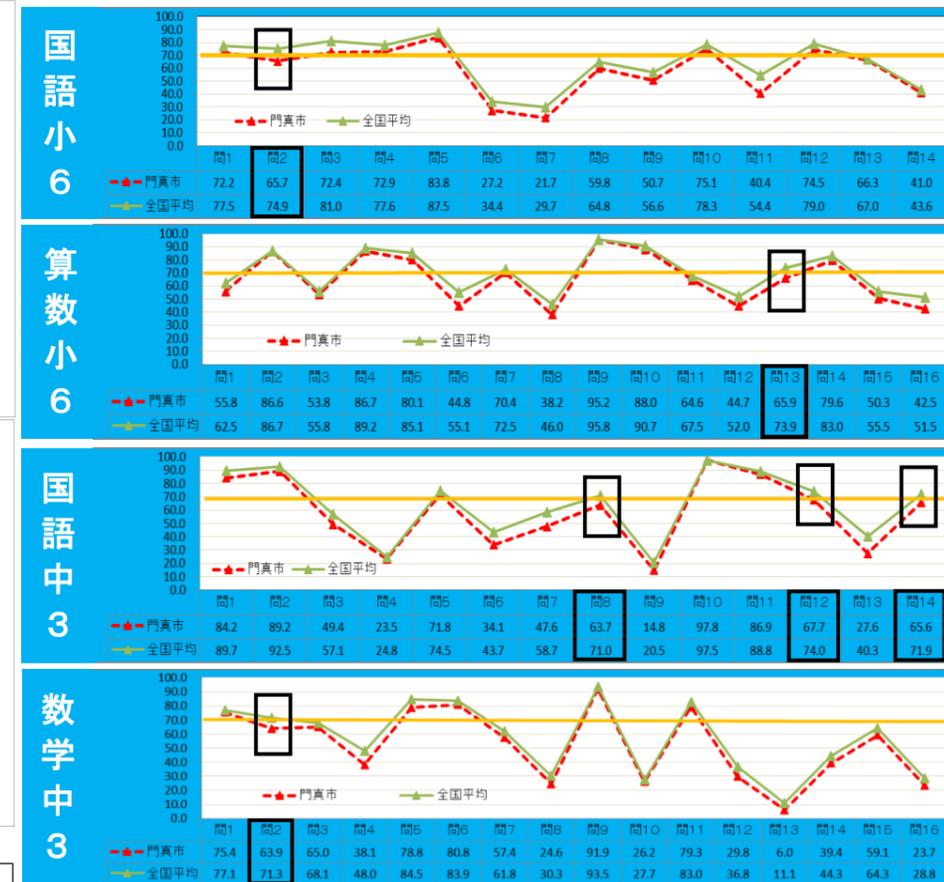
※ 今回お知らせする調査結果につきましては、学力や学習の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などの全てを表すものではありません。

標準化得点を活用した対全国比経年比較



※標準化得点とは、全国平均との関係について年度間の相対的な比較ができるよう、計算されたものです。
 ※平成21年から平成30年までの算数・国語の調査結果、A・B区分の平均値で表しています。

設問別正答率 (全国平均正答率と本市平均正答率)



* 全国平均正答率7割以上の設問において、門真市平均正答率7割未満の問題を口で囲っています。

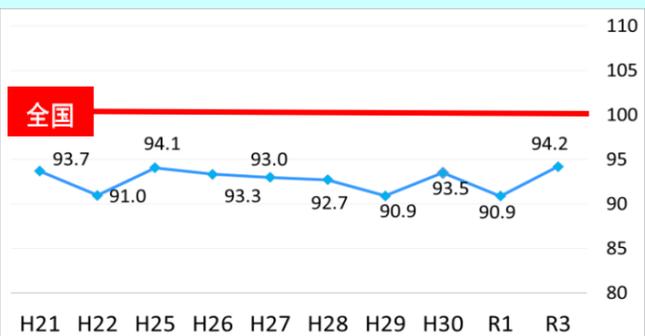
小学校

国語

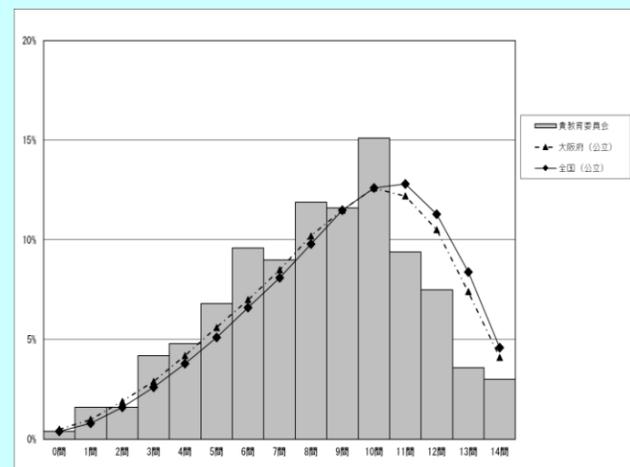
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



正答数分布



中学校

国語

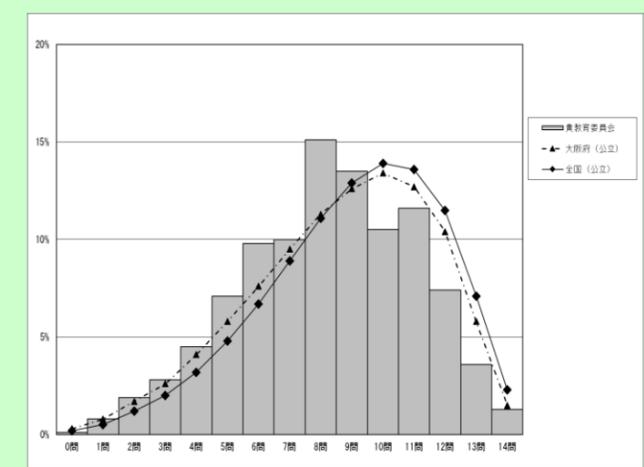
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



正答数分布

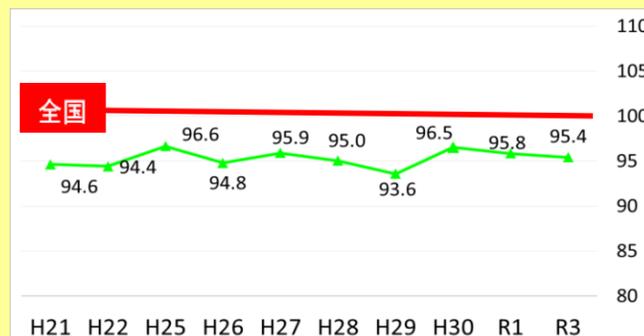


算数

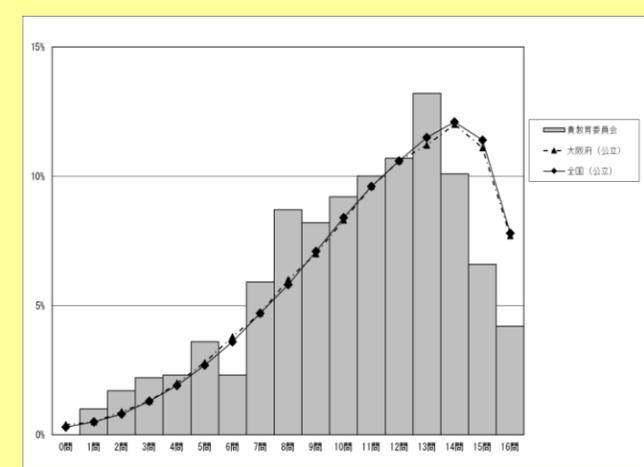
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



正答数分布

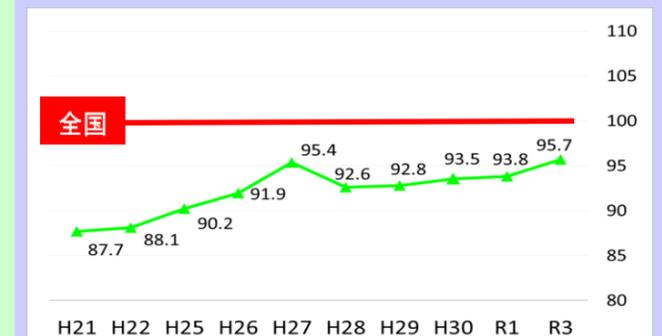


数学

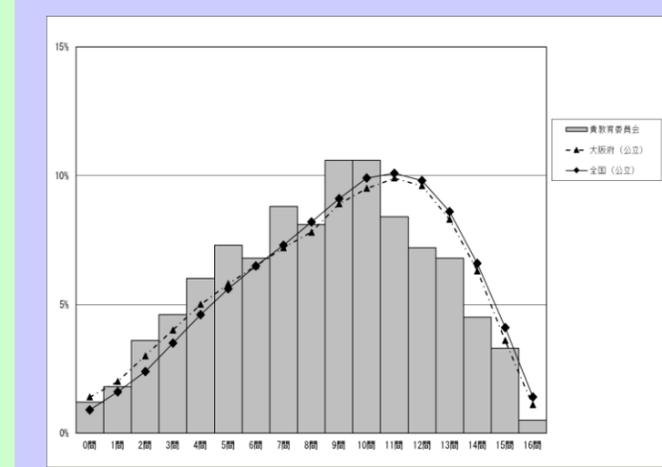
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



正答数分布



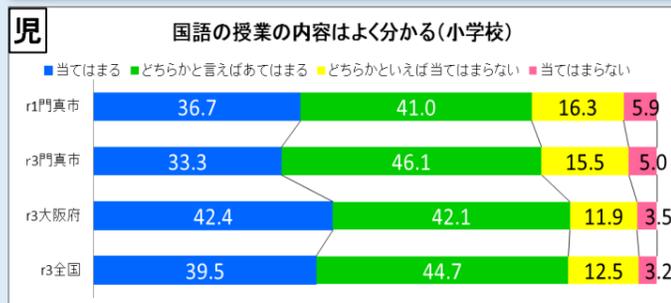
小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

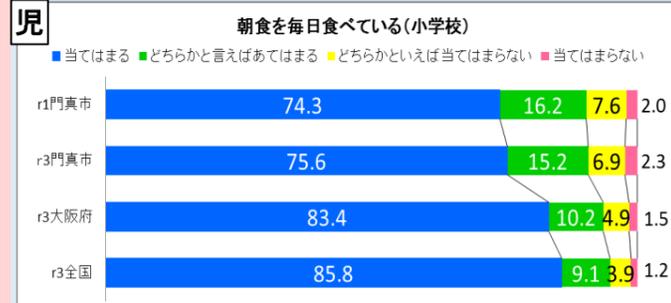
小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

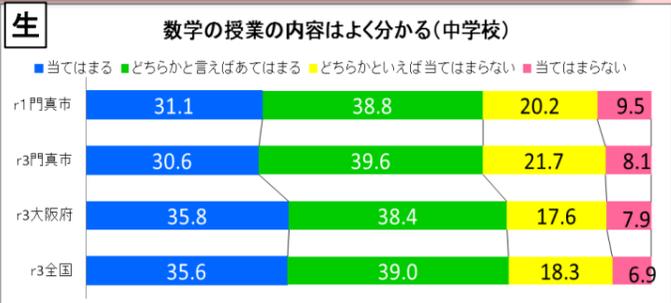
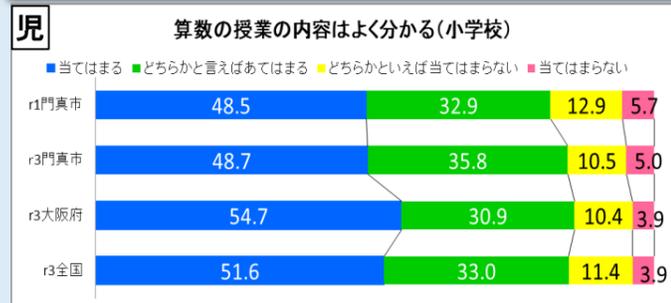
国語の学習内容理解は、児童生徒ともに改善が見られた



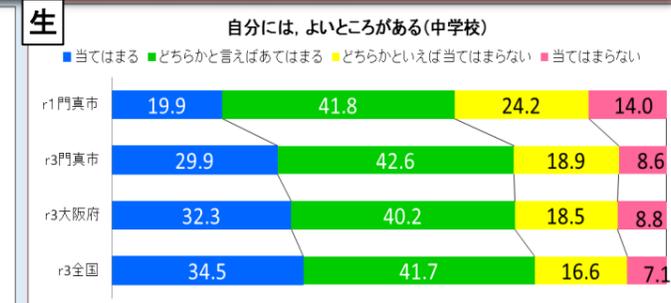
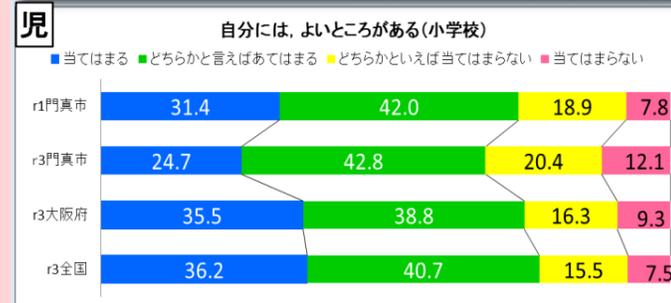
朝食を毎日食べている児童生徒の割合はともに増加(※)



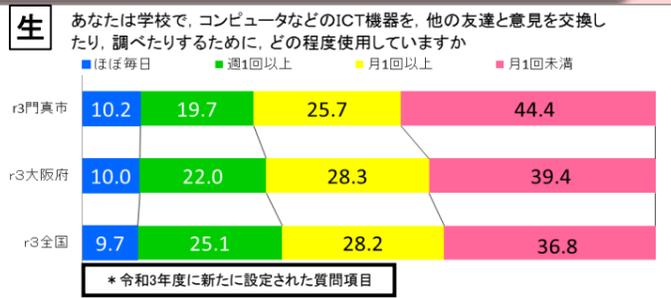
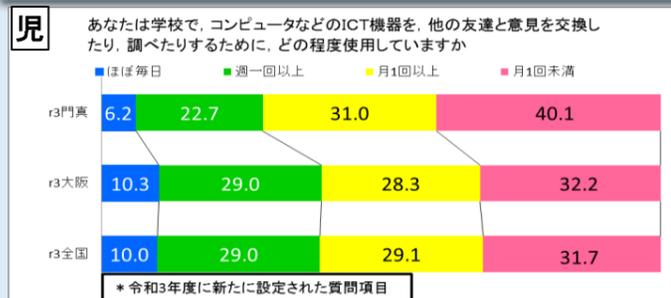
算数・数学の学習内容理解は、児童生徒ともに改善が見られた



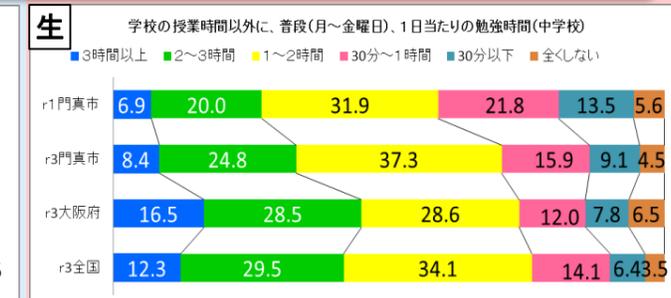
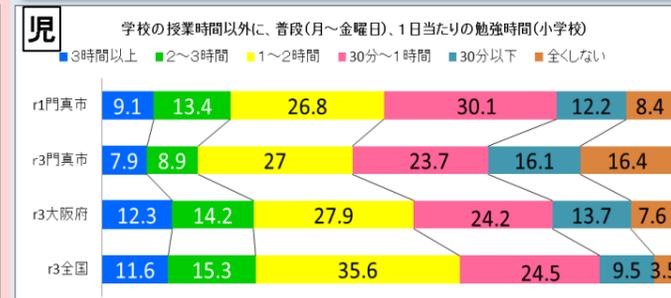
自分には、よいところがあると思う児童は減少、生徒は増加



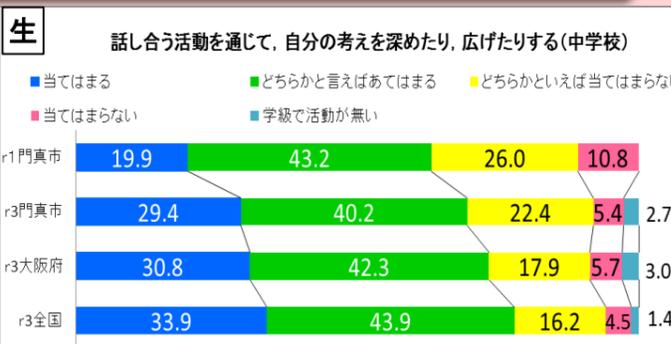
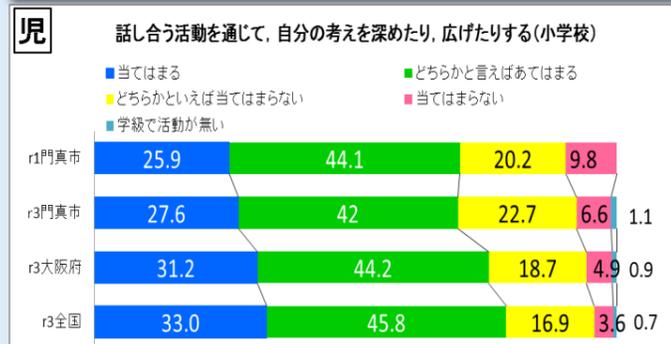
ICT機器の活用について、週1回以上使用する割合が児童生徒とも対国・対府割合に比べ少ない



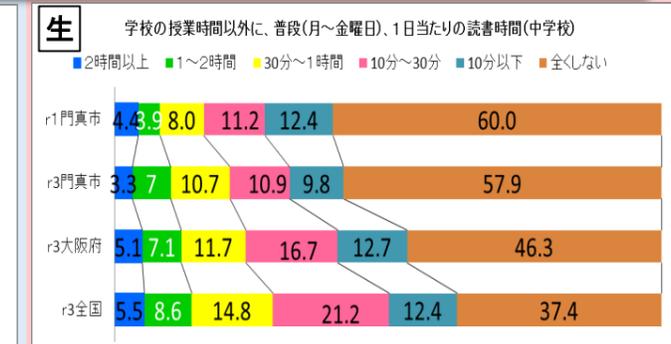
学校の授業時間以外に1日当たりの勉強時間1時間以上において児童、生徒ともに増加



話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている児童は減少、生徒は増加



学校の授業時間以外に読書1時間以上する児童は減少し、生徒は増加



(※)門真市教育委員会と学校が連携し、全国学力・学習状況調査の結果の分析を基に、子どもの力をより良く育成できる授業改善及び学校教育環境の改善をさらに行ってまいります。また、「早寝・早起き・朝ごはん」など、安定した生活習慣と子どもの学力には相関関係があると、言われています。全国学力・学習状況調査の結果が返却される機会に、お家でもお子さまと生活習慣について、本資料を活用し、お話する機会をつくっていただければ幸いです。

